TIFA会報

Tachikawa International Friendship Association

ホームページ　http://tifa-class.net/

外国人に日本語を教えるボランティア団体

2019年9月19日
Vol.141（隔月発行）
立川国際友好協会
発行責任者　齋藤 實
編集責任者　小林 保

西砂教室 ボランティア講習会

８月31日（土）、“やさし日本語で外国人とつながろう！”のテーマで講習会を開催しました。参加者はボランティア講師17名、西砂地域の方々14名の計31名で、概要は以下のとおりでした。

講師：国際基督教大学教授
シニア・アドバイザー　半田淳子先生
場所：天王橋会館学習室
講習会：午後3時～5時

内容：やさしい日本語とはなにか。なぜ必要か。外国人と接するときに心がけたいこと。
懇親会：午後5時～7時
軽食を取りながらの懇談会。半田先生への質問が途切れず、大変賑やかな時間でした。
地域の方々に西砂教室の活動を知っていただく良い機会になりました。

土曜教室 ボランティア研修会

7月6日（土）、土曜教室ボランティア教師の研修会を柴崎学習館２階調理室で開催しました。研修の概要は次の通りです。

１．講師：細江謖夫氏
大手保険会社に勤務し、ブラジルに6年間の駐在経験があり、現在は行政書士。又TMC副理事長として、主にポルトガル語圏の外国人の相談を担当されています。

２．研修の内容
（1）在留資格の分類と特定技能
出入国管理法が改正され、今年４月から従来の「技能実習生」とは別の新資格「特定技能」が新設されました。
対象業種は介護、外食、宿泊を含む14業種で特定技能１号と特定技能２号があります。
在留期間は特定技能1号で1年。但し､更新により上限5年(通算)可能。特定技能2号で3年。但し、資格更新が続く限り在留が可能です。
（2）多文化共生センター相談業務からの状況報告
２018年開催の『外国人のためのリレー専門家相談会』実績とTMC外国人相談事例の紹介がありました。
参加者は32名で、木曜教室からも数名の方が参加し、数多くの質問があり、今までにない熱気のある研修会でした。

日本語教室の２学期スタート

1ケ月の夏休みを終え、9月5日から柴崎学習館の木曜教室が、スタートしました。ボランティア28名、受講生31名で、いつもとほぼ同じ人数の出席者です。勉強に最適な秋季を迎え、互いに理解と親睦を深めながら楽しく日本語学習に励んでいきたいと思います。

土曜教室、西砂教室は9月7日に開始されました。

木曜教室 ランチパーティー

７月18日、日本語教室終了後、恒例のランチパーティーが開かれました。参加者が一品持ち寄り、机の上に多彩な種類が並べられると一気にスパイスの香りやエスニックな香りと甘い香りが漂い食欲をそそり、一斉に世界各国の料理を堪能している姿が見られました。参加者は約36名、学習者、ボランティアの人たちと和やかな交流の場を過ごしました。

土曜教室の受講生紹介

氏名：任 大赫（リム デヒョク） 男性　20代

出身地：韓国 天安市

現住所：立川市富士見町

来日時期：2018年8月

職業：ITエンジニア（ソフトウェア開発者）

日本での生活：韓国では両親と一緒に暮らし、一人暮らしは初めてです。誰の助けもなしに自分で住むところを探すのは難しかったです。三ヶ月ほど経ってからは日本での生活にも慣れ、グルメ旅行をしたり、休日には趣味の活動などをしながら生活を満喫しています。残りの20代を後悔なく過ごせるように語学と技術をもっと高めるよう努力をしたいと思います。

氏名：チャン ティ トゥイ　女性　20歳代後半

出身地:ベトナム ホーチミン

現住所：立川市柴崎町

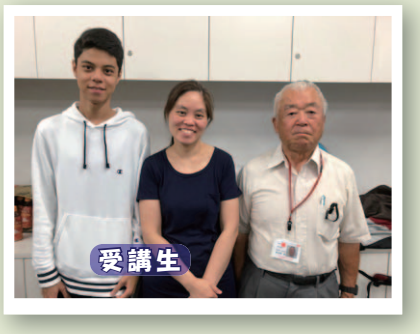
来日時期：2019年6月

家族：夫と 2 人。ベトナムに両親と弟がいます。

夫とは大学で知り合いました。夫はエンジニアで2015年に来日し、日本の IT 企業で仕事をしています。私は7月から新大久保の日本語学校で勉強しています。ベトナムでは4年間、銀行で仕事をしていました。

趣味：本を読むこと。小説や経済の本が好きです。日本のコミックも好きで学生時代よく読みました。

氏名：中村アユミ　母40歳代　**中村ルイス**　長男10歳代



出身地:ブラジルサンパウロ市

現住所：立川市若葉町

来日時期：2017年5月

故郷での思い出：お母さん（日系3世）は、家族、友人、ペット（犬と猫）がいて楽しく過ごしたこと。そして両親と毎週、レストランで食事をしたこと。息子さん(中学3年生は、ウバトバ海岸で従兄弟と遊んだこと。ブラジルでは小学1年から英語の勉強があります。日本語は大変難しいです。漢字を覚えたいという希望で、小学校の漢字を勉強中です。6月時点で3年の漢字ドリルを終えました。高校進学が気になります。

氏名：ナサンジャルガル　女性　30歳代

出身地：モンゴル

ウランバートル

現住所：武蔵村山市

来日時期：2016年11月

趣味：本を読む事と山に登る事です。

日本に来てから、もう3年になります。食品会社の技能実習生です。会社では、日本人とモンゴル人（9名)、ベトナム人（3名)、フィリピン人（7名）が働いています。

日本に初めて来て、街がとても綺麗で面白いと思いました。

5月に主人と5歳の息子が会いにモンゴルから来てくれました。上野動物園でいろいろな動物を見ました。とても嬉しかったです。そして、舟で浅草に行ってスカイツリーも見ました。日本料理も美味しかったです。私は今年の11月に帰ります。心の半分は家族に会いたいです。半分は皆に会えなくなるのがさびしいです。いつか日本で家族3人一緒に住みたいです。

氏名：ブイ タイン ガン　男性　20代

出身地：ベトナム

現住所：府中市

来日時期：2018年5月

職業：左官

家族：ベトナムに父、母、妹

趣味：アニメを見ること。

仕事は、すごく楽しいです。会社の人たちは親切だけど厳しいです。わからない仕事も丁寧に教えてくれます。会社の人たちの半分は、自分の父親より年上です。会社の人が話す時は、いつも笑顔です。

氏名：マリア　女性　40歳代

出身地：フィリピン

現住所：立川市砂川町

来日時期：2006年5月

日本語について：日本に来て言葉がとても難しいと思いました。子供たちが学校へ行くようになってからは、学校の活動を通して日本語を覚えていきました。とてもうれしく感じました。友達もできて、皆が日本語を教えてくれたので、日常生活で使われている言葉をたくさん学びました。おかげで、日常会話には困らなくなりました。今は、文章を書けるようになりたくて、毎日、漢字を勉強しています。

ニューカレドニア短期留学 2019

土曜教室　　木下　究

去る8月3日から12日まで、立川市の中学生10名のフランス領ニューカレドニアへの短期留学に同行してきました。大変貴重な経験でしたので、これまでの交流の歴史も振り返りながら、簡単な報告をさせていただきます。

―独立に揺れるニューカレドニア―

日本から約8時間のフライトのニューカレドニアは、四国とほぼ同じ面積に約28万人（うち首都ヌメアに10万人）が暮らす海洋国家です。フランスの他の海外領土と異なり、「特別自治体」という地位を得て、大幅な自治権を獲得しています。

昨年11月に独立を問う住民投票が実施されました。独立反対派が56％を獲得し、独立は否定されましたが、投票後のニュース映像を見ると、独立反対派は意気消沈し、独立派は勝利したかのような喜びようでした。独立派自身も44％もの賛成票を得られるとは予想だにしていなかったからです。

住民投票を定めた協定で、2020年、2022年にも再び住民投票を実施する権利が与えられています。実際に投票が実施されるかどうか予断を許しませんが、先住民系カナック、ヨーロッパ系、アジア系の人々が共生するニューカレドニアにとっては、「多文化共生」がなによりも大事な課題であり、その帰趨（きすう）が将来を決するといっても過言ではありません。

―中学生たちの交流―

このようなニューカレドニアと立川市の中学生たちの交流は、四半世紀前にさかのぼります。

1993年に開催された立川子供世界音楽祭にニューカレドニアの子どもたちがフランス代表として参加したことをきっかけに、翌1994年、20名の中学生が来日し、柏小学校に短期留学して、同校校区にホームステイしました。このとき、立川第四中学校にも１日留学しましたが、同年齢同士が親しく交流する様子から、中学校への短期留学がめざされました。その結果、ボドゥー中学校と第四中学校との交流留学が実施され、2013年からは、第四中学校のみならず市内の全中学校から短期留学生を募集するようになりました。この25年間にニューカレドニアから150名、立川から100名の中学生が短期留学に参加しています。

―自分の頭で考える子どもたち―

さて、ニューカレドニアの学校生活は日本とかなり違います。フランスの教育制度では、小学校5年、中学校4年、高等学校3年という区分ですが、同じクラスで同じ授業を受けるのではなく、各生徒が個人別のカリキュラムに従い、授業ごとに教室を変えていきます。日本の大学での受講風景が中学校で繰り広げられている、と言ってもいいかもしれません。

また、公立中学校ではありますが、習熟度別のカリキュラムも用意され、オーストラリアでの単位としても認められる「英語による歴史・地理」の授業などもありました。もちろん、私語が多く、先生の話に集中しない授業も見受けられ、すべてが素晴らしいとは言い切れません。しかし、教育の基本を「正解を暗記する」ことよりも「自分の頭で考える」ことに置いているのは確かなように思われました。

教室にて

州政府や市役所も訪問し、ニューカレドニアの歴史や自治の仕組み、環境保護などについてお話をうかがいましたが、同行してくれた現地の中学生たちがごく自然に次々と質問をし、大人たちと成熟した会話を交わしているのを見ると、自分の意見をまとめ表明していく能力の高さに驚きを覚えました。

市役所にて

立川市から参加した中学生たちは、語学力の課題もあり、かならずしも十分なコミュニケーションがとれたわけではありませんでしたが、さまざまな手段で意思疎通をはかり、中身のある交流ができたと思います。事前研修では硬い表情で、声も小さかった中学生が、現地でみるみる明るくなり、ハキハキと対応しているのを見ると、異文化交流の力というのを改めて実感しました。

州政府や市役所では、立川市が2016年に「多文化共生都市宣言」を行っていることを伝え、この交流事業がまさにこの宣言を体現するものだとアピールしてきました。

来年秋には、ニューカレドニアから20名を超える中学生が短期留学を予定しています。ホストファミリーを引き受けていただいたり、歓迎事業や交流事業へ参加していただければ、これにまさる幸せはありません。

みんなで東京音頭

“えんがわサロン”の活動

毎月第4金曜日の午後1時30分から柴崎会館で活動をしている“えんがわサロン”は、早いものでスタートしてから4年目になります。今回は今年度前半の活動概要について紹介します。

4月26日（金）

参加者15名。外国人9名（中国5：子供2含む、台湾1、コロンビア1、韓国1、ルーマニア1）、日本人（ボランティア5、一般1）でした。中原アズセナさん(土曜教室)がコロンビア料理：「インゲン」を張り切って教えてくれました。ひき肉、トマト、チーズ、インゲン、アボガド、調味料（牛乳、ニンニク、ショウガ、塩、コショウなど）を使い炊き立てのご飯と一緒にワンプレートでいただきました。

5月24日（金）

参加者5名（外国人1（台湾)、OG2、ボランティア）の少々寂しい えんがわサロンになりました。

日本の和菓子：柏餅（かしわもち）に挑戦しました。

OG 小川さんの指導で、上新粉、粒あん、柏の葉を使い、いとも簡単に「りっぱな柏餅」が出来上がりました。

斎藤会長の「私、食べる人。あなた、作る人。」の掛け声の中、和やかな笑いいっぱいのサロンになりました。

6月28日（金）

参加者は未就学児を含む14名。外国人7名（中国5、韓国1、ベトナム1)、日本人7名（OG1、ボランティア5、一般1）でした。OG の宮内鞆子さんのご指導でたくさんの「餃子」を作り、本当に美味しい和やかなひと時を過ごしました。調理をお手伝いしてくれた中国出身の皆様の手際のよいこと！

朝取りの新鮮な野菜の差し入れもあり、早速テーブルにのりました。瞬く間にお皿が空になり大満足でした。

7月26日（金）

参加人数は16名。外国人10名（ベトナム2、台湾1、韓国1、中国6（子供3含む))、OG1、ボランティア4、一般1（学芸大学ゼミ生）でした。

今回はOG小川さんより「水ようかん」の作り方を教えて頂きました。「こしあん」、「寒天パウダー」と水だけの材料で、美味で薄紫色の涼し気な羊羹が出来上がりました。和菓子を食べた後、ボランティアの長屋さんのご指導で外国人の方々を対象に「お抹茶のお点前」体験。茶器の説明からお点前、作法など日本文化の一端を堪能しました。

8月23日（金）

休み中で、帰国したり休暇をとって東京を離れたりされている方が多く参加者4人の寂しいサロンになりました。それでも外国人2名（台湾1、タイ1）ボランティア2名で台湾出身の大竹さんの熱心なご指導のもと「緑豆入りのお菓子」を作りました。緑豆をつぶし椰子油をまぜ、「型」に入れて形を整えると見事に美しいお菓子の出来上がり。たくさんの薬味を入れた長冷麦を食した後、今回初めて参加されたタイのシリオンさんと共にお菓子の上品な味を楽しみました。「参加してよかった！」と大変嬉しい感想を頂きました。

次回の“えんがわサロン”は9月27日（金）で木の実を使ったお菓子を作る予定です。お気軽に柴崎会館にお越し下さい。

TIFA会員動向

【入会者】
木曜教室、西砂教室：なし
土曜教室：渡邊 典子

【退会者】【休会者】
木曜教室、土曜教室、西砂教室：なし

今後の予定

・バーベキュー：10月14日（月）予定
・世界ふれあい祭りバザー：11月2日（土）、3日（日）